

施策	61	地域資源の発見・資産化	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	松下 徹	内線	3740
政策担当部長名	教育次長 三浦伸一				
施策関係課名	歴史研究所、公民館、美術博物館、図書館、環境課				
重点施策	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画、飯田市歴史研究所第3期中期計画「伊那谷の自然と文化」をテーマとした取組み方針			

1 施策の目的

目的	対象	地域資源(地域にある自然・文化・歴史) 市民
	意図	見出す 価値を顕在化させる 認知度を高める

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
存在が確認された地域資源の数(累計)	件	2,671	2,722	2,964	3,035	3,168	3,809	2,900
住民人口	人	105,691	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	102,000
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
価値が見出された地域資源の数(累計)	件	1,511	1,599	1,658	1,679	1,770	1,864	1,700
活用できる状態の整った地域資産の数(累計)	件	558	580	618	647	670	679	700
地域資産を知っている市民の割合	%	43.0	41.8	45.6	44.9	44.5	45.2	45.0

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
行政	調査研究する。 指定・認定・登録する。 情報を収集・整理・発信する。	調査研究を行った地域資源の数(社会教育機関の実績を生涯学習・スポーツ課で集計、累積件数)	1,658	1,679	1,770	1,864	1,700
		指定等が行われた文化財の件数(生涯学習・スポーツ課で把握、累計件数)	164	167	169	174	190
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項				
市民等	調査研究する。 情報を提供・発信する。	市民によって見出された地域資源の数 発見情報の提供・発信件数	伊那谷研究団体連絡協議会(伊那谷学の研究実践を多様な分野で担う16団体で構成)から、「伊那谷学」のとりえ方と、今後に向けた推進のあり方をまとめた方針が打ち出され、この中で、伊那谷学の研究成果を会誌、会報等に掲載する等して広く情報発信していくことが示された。				

3 平成26年度の評価結果

(1)実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2)施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

- ・美術博物館、歴史研究所、生涯学習・スポーツ課が中心となり、新たな地域資源の発見と資産化をさらに進めることができた。
- ・地域資源の発見では、生誕140周年の節目にあたって、菱田春草の未完の作である「雨中美人」や、スケッチ等の貴重な資料を多数発見することができ、「創造の源泉 菱田春草のスケッチ展」において展示することができた。
- ・資産化の取組みでは、中心市街地で大火の消失を免れ旧飯田町の風情を残す「橋北まるごと博物館」のエリア内にある下伊那教育会館、旧黒須家門等が国登録有形文化財として登録され、飯田城桜丸のイヌノキが県天然記念物となった。また、ヤマト王権との深いつながりにより造られた飯田古墳群に関連する馬に関する出土物を市有形文化財に包括的に指定した。

< 地域資源の発見 >

- ・美術博物館においては、菱田春草の未完成作品やスケッチ等の貴重な資料を多数発見するとともに、未整理であった自然資料の整理と目録登録を進めるとともに、貴重な文化史料である飯田城本丸絵図の購入や、貴重な仏像資料の調査研究を行った。
- ・歴史研究所では、18年度より行ってきた旧南信濃村役場文書の整理・保存を終了させるとともに、地域史研究団体と協働した史料調査を進めて目録を作成した。

< 地域資源の資産化 >

- ・24年度に国登録有形文化財となった旧飯田測候所を含む「橋北まるごと博物館」のエリア内にある下伊那教育会館及び土蔵、旧黒須家の門及び土蔵の4棟が新たに国登録有形文化財に登録された。
- ・3県10市町村による南アルプス世界自然遺産登録推進協議会の取組みの一つの到達点として、南アルプスが26年6月にユネスコエコパークに登録認定された。また、伊那市を主会場に開催された日本ジオパーク南アルプス大会の企画開催に参画した。
- ・美術博物館では、文化資料調査研究の成果としての「飯田お練り祭りの本屋台」や、企画展示に併せた図録の作成を行い、歴史研究所では、「描かれた上飯田 明治初期の地引絵図をよむ」、「勤向書上帳」(江戸時代の飯田藩を中心とする政治・行政システムをうかがえる史料)を発刊する等資産化を進めた。

< 地域資産の情報発信 >

- ・美術博物館、歴史研究所では、専用ホームページや機関紙、年報・紀要、市広報紙等を通じて情報発信を行った。
- ・生涯学習・スポーツ課でも、24年度から立ち上げた「文化財保護いいだ」のホームページや、毎月の「広報いいだ」の文化財紹介コーナーでの情報発信を行った。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

< 地域資源の発見・資産化 >

- ・地域の個性と魅力を守り、育み、発信するために、伊那谷の自然と文化をテーマとした学術、普及、継承、活用の取組を、伊那谷研究団体協議会を構成する団体や研究実践者等と協働してさらに進める。
- ・美術博物館、歴史研究所においては、市民研究団体や専門機関等と連携した調査研究活動を継続実施し、地域資源の発見と、調査研究成果を基にした報告書・刊行物の発刊やデータベース化等を通じた資産化を進める。
- ・生涯学習・スポーツ課では、地域資源の学術評価を進め、価値が明らかとなり指定条件が整った資源については、文化財審議委員会の意見を聴いて文化財指定を進めるとともに、重要度の高い資源・資産については、県、国の指定等を検討する。
- ・南アルプス自然遺産登録推進協議会が母体となったエコパーク、ジオパークの取組みに参画し、その推進を図る。

< 地域資産の情報発信 >

- ・施策主管課・関連課が管理運営するホームページの充実を図るとともに、多様な情報媒体を効果的に活用して、地域資産の情報発信をさらに進める。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標 施策6-1

対象
地域資源
市民

意図
見出す
価値を顕在化させる
認知度を高める

成果指標

見出された地域資源
の数

活用できる状態の
整った地域資産の数

地域資産を知っている
市民の割合

地域資源の発見

地域資源の資産化

地域資産の情報発信

事務事業

伊那谷自然資料調査研究事業

伊那谷文化史資料調査研究事業

伊那谷作家調査研究事業

歴史研究所調査研究事業

埋蔵文化財調査事業

恒川遺跡群保存活用事業

春草生誕地整備活用事業

文化財資産化事業

美術品・資料購入事業

愛宕蔵保存活用事業

市誌編さん事業

南アルプス世界自然遺産登録推進事業